

あゆみ通信

VOL 134

あゆみの会（真宗大谷
派大阪教区第2組同朋
の会）推進員連絡協議会
会長 浪花 博
広報 本持 喜康

2組司朋大会にご参集を



「如来に信ぜられ、如来に敬せられ、如来に愛せらる、かくて我らは、如来を信ずることを得（う）る」という曾我量深先生のお言葉があります。私たちは阿弥陀さんに信じられ、敬（うやま）われ、そして愛されているから、阿弥陀さんを信じることができるのであると。お念仏もまた同じように、阿弥陀さんの方から私たちに念じ呼びかけてくださっているからこそ、お念仏申すことができるのだと思います。（中略）

念仏は私が称えようという意識よりも深いところから出てくるものです。なぜならばお念仏の出どころは私たちのことを敬い信じ、愛してやまない仏の心から出てくるものだからです。お念仏が私たちのことを忘れていないから、私たちの口から南無阿弥陀仏が出てくる。このことを思う時、私の声となってあらわれた南無阿弥陀仏の六字は、私の中に宿された仏の心が形となったものであることを教えていただきます。だからこそ、南無阿弥陀仏は〈最後まで残る言葉〉なのでしょう。

（光川眞翔北海道教区第4組永泉寺住職「花すみれ2019年7月号」から引用）



第35回 第2組同朋大会

真宗にであう講演と木管五重奏

2020年3月7日（土）講師 酒井 正夫 師

13:00開場 13:30開会 16:00閉会

南御堂 同朋会館講堂

難波別院（南御堂）

大阪市中央区久太郎町4丁目1番11号

電話：（06）6251-5820

講題 いのち 願・自身

～ 人生八食、コレ道ナリ ～

三重教区 真宗大谷派 道浄寺前住職

相愛大学卒業生による木管五重奏

演奏曲目

○ハイドン/チェルビンス

○いすみたく/舞上げてこらん

○久石譲/松任谷由実/麗しの宅急便メロデー

○イザベル/木管五重奏のための3つの小曲

○重徳讃

お名前： ★参加費：1000円★記念品有

所属寺院名： ※所属寺院がなくても参加できます※

第35回第2組同朋大会

「真宗に出会う講演と木管五重奏演奏の集い」

第2組の年始開幕の仏事です。誘い合わせて、ご参集ください。

日時 3月7日（土）13:30

開場 13:00

会場 南御堂同朋会館講堂

日程

開会

讃歌 真宗宗歌

勤行「正信偈」草四句目下

同朋奉讃 「弥陀成仏の」

回向 「願以此功德」

開会挨拶 海老海恵幸組長

（了安寺 住職）

（休憩）

第1部 演奏

相愛大学音楽部卒業生による木管五重奏

（休憩）

第2部 法話

講題「願・自身（いのち）」

～ 人生八食、コレ道ナリ ～

講師 酒井正夫師

（三重教区 道浄寺前住職）

閉会

閉会挨拶 中嶋ひろみ

門徒会会長

讃歌 恩徳讃

参加費 1000円（記念品有）

大推協公開講座案内

大推協（細川克彦会長＝佛足寺）では、下記の通り公開講座が開催されます。講師は養成講座おなじみの三好泰紹先生です。

日時 3月9日（月）

14:00～16:00

開場 13:30受付

会場 難波別院

同朋会館

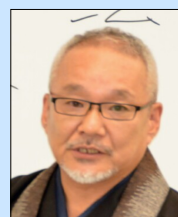
講題

親鸞の見た風景

講師 三好泰紹（ひろつぐ）先生

（22組 蓮正寺住職）

参加費 無料



老いを道連れに

聞法仲間の坊守さんから借りた故東井義雄先生（教育者、念仏者）のDVD。そして、4期養成講座で補導の千葉の寺のメル友青年住職からいただいた東井先生の「家にこころの灯を」で、すっかりはまり、先生の著作を探すように。そして手に入れた「東井義雄一日言」（2015年致知出版）、「おかげさまのどまんなか」（1995年校正出版）

昨年末79歳になった実感は、つくづくと今までできたことができなくなり、眼も耳も体力も弱って行く。ちょっと出かけるとすぐ疲れるし、腰も膝も痛くなり、長く歩けない。最寄り駅からの帰り道で、先頭を切っていたのが、気が付けば今はどんどん抜かされて、べべになっているこの頃。

何もええことがないと。歳の性にして逃げていた自分がここにいる。

でも、東井先生は言う。歳をとるということは「大事にしてくださいと、いたわってくれる人がいる」「あたりまえであることの ただごとでなさ が 体中にわからせてもらうようになる」と。また「雨の日には雨の日の/老いの日には老いの日の/おめぐみ」

心の奥底の法蔵さんの声が聞こえる。「それでよいのか、お念仏申せ」と。（本）

ひとりでは生きられないのも芸のうち

先月の即應寺新年門徒総会の法話で講師の王来王家先生（大阪教区駐在教導）から紹介された内容を、皆さんにご紹介したい。

内田樹（たつる）さんの著作「ひとりでは生きられないのも芸のうち」（文芸春秋）から。ここには2000年代の日本社会の問題が書かれています。

「原子化」について

「原子化」というのは、市民たちがさまざまな伝統的紐帯を失ってばらばらになってしまうことです。人々が「自立」して、「自己実現」を目指して「自己決定」をくだし、その成否についてはすべて「自己責任」を負う、そういう生き方のことです。

誰にも依存しない、誰からも依存されない。誰にも迷惑をかけない、誰からも迷惑をかけられない。自分の失敗の責任は誰にも転嫁しない。そのかわり自分が獲得したものは誰ともわちあわない。相互扶助、相互支援の仕組みは要らない。親族も地域社会もいらない。自分に必要なものがあれば貨幣を出して市場で商品として買えばよい。

そういう考え方です。

家事労働も、医療も、教育も、介護も、慰安も、快樂も、すべては商品として市場に並んでいる。誰でも金さえ出せば買えるのだから、ひとりひとはただ「できるだけ多くの貨幣をできるだけ効率よく稼ぐこと」だけに集中すればよい。十分な貨幣を稼げない人間は、人間として必要な最低限のサービスを受けられず、ついには路上生活に転落して窮死するしかないが、それは「自己責任」である。

それが「原子化した市民」の生き方です。

一方、「グローバル化」というのは、商品、資本、人間、情報が国境を越えて超高速で

移動することです。つまり、「国民国家を解体して、世界市場に組み込むこと」ですが、先生は、まっしぐらにそういう方向に日本も向っているといわれます。

結論を言うと、市民の原子化は、社会のグローバル化の論理的帰結だと言われます。

市民は「原子化」がもたらした深い孤立に苦しんでいます。親族とのつながりが絶え、隣人たちと地縁で結ばれることもなく、人間として生きていくための基本的なサービスをすべて商品として市場で購入しなければならない。タイトな生き方です。人間は誰でも病むし、傷つくし、老いるし、生産性を失うことがあります。一人で生きていけば、そういうことがあるたびに社会の最下層に転落するリスクを負うことになる。

そのリスクを回避するためには、集団成員が相互に支えあい、支援しあう仕組みを作る他ありません。集団に帰属していれば誰でも（お金がなくても、能力がなくても、幼くても老いていても、病んでいても）人間としての自尊感情を高く持って、愉快地暮らしていける仕組みが必要です。

内田樹先生の結論は、

「世の中には金儲けよりも大切なものがある。それは支援を求めている人を支援することだ」と言われます。しかしこの国の政治家や官僚やメディアも指一本動かす気がないことに愕然とするとされます。

王来王家先生の話聞いて、すぐに本屋で本を買いました。

現在の社会の一部が、すでにそうなっていると思います。根本の税制改革には手つかずで、消費税を上げ、税金や経費の「公平負担」の名のもとに、高齢者の年金を減らし、一方では医療費の負担割合を上げるなど、この内容とよく似たことが公然と行われており、それがどんどん加速していると感じているのは、自分だけでしょうか。（本）

5/26(火) 第2組 日帰りバスツアーの大綱決まる

あゆみの会第2回例会に連動する第2組日帰りバスツアーが具体になりました。（詳細後日）
集合時間 午前8時30分
集合場所 天王寺公園バス停
コース（予定）

天王寺ー（高速道路）一三重県 浄土真宗高田派総本山専光寺（見学・参拝）・昼食（会館）一伊賀上野城散策一（高速道路）一天王寺

募集人員 45名

参加費（昼食代含む）6000円

申し込み 4月末までにお手次のお寺まで。

別途、第2組から寺院宛に具体的内容が、配布される予定です。ぜひ、ご参加を。

続・今年の行事

第2組（続き9）

○第2組日帰りバスツアー

日時 5月26日（火）詳細未定
行先 浄土真宗高田派総本山

○聞法会

日時 6月13日（土）午後2時
会場 西教寺（阿倍野区阿倍野元町）
講師 宮部 渡先生

（15組 西稱寺住職）

参加費 500円

○聞法会「共に学ぶ正信偈」

日時 7月25日（土）午後2時
会場 専行寺（天王寺区堂ヶ芝）
講師 新田修巳先生

（4組 正業寺住職）

参加費 500円

○聞法会

日時 8月21日（金）午後2時
会場 光照寺（天王寺区上汐）
講師 広瀬 俊先生

（17組 法観寺住職）

参加費 500円

○聞法会「共に学ぶ正信偈」

日時 9月30日（水）午後2時
会場 行圓寺（西成区山王）
講師 新田修巳先生

（4組 正業寺住職）

参加費 500円

（ご注意）日程は予定です。

諸般の事情で変更される場合があります。その際にご案内させていただきます。